

# さいくうあと通信



























発行 明和町 齋宮跡・文化観光課  
 (三重県多気郡明和町大字馬之上 945 番地)  
 電話：0596-52-7126 FAX：0596-52-7133  
 E-mail：saikuuato@town.mie-meiswa.lg.jp

春 ver.

## 史跡公園齋宮跡 樹木の見ごろ一覧表

花の時期  
 実の時期

まんようしゅう  
 万葉集に  
 詠われた樹木

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
サクラ 												
コブシ												
ユキヤナギ												
オガタマノキ												
エゴノキ 												
ヤマブキ 												
ツバキ 												
タチバナ 												
フジ 												
ヤマボウシ 												
アセビ 												

春になりました。史跡公園齋宮跡にはたくさんの樹木があり、自然観察にぴったりです。今回は、史跡公園内にある春が見ごろの樹木をご紹介します。また、公園にある樹木は、古代の歌集である『万葉集』にも多く詠われています。歴史ロマンを感じながらの春のお散歩はいかがですか？

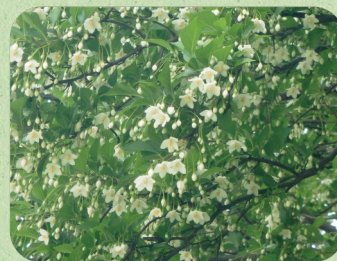


### 齋宮歴史博物館ふるさと広場のシダレザクラ



日本の春を代表する花で、花といえば、桜花をさします。万葉集や古代の歌にも多く詠われています。日本神話には、桜の女神も登場します。

### 竹川祓戸のエゴノキ



花期が短く、下向きに咲くため、あまり目立ちませんが、満開時は目を見張ります。万葉集ではその花期の短さと恋人の移り気を対比させています。

### いつきのみや歴史体験館のアセビ、ウメ、ユキヤナギ



齋宮に来られた齋王で、万葉歌人でもある大来皇女おおくのひめみこの歌にもアセビが詠われています。ユキヤナギは、群生して美しく、「小米花」とも呼ばれます。

### 『万葉樹木マップ』



樹木散歩の際には、ぜひお持ちください。(齋宮跡内の各施設で絶賛配布中)

## コラム 歴史の道から探る王朝人の想い ③

齋王、齋宮に関するストーリー「祈る皇女齋王のみやこ 齋宮」が日本遺産に認定され、早3年が経とうとしております。齋王に関する場所は齋宮だけではなく、町内に点在しています。大淀にある齋王尾野湊御禊場跡も日本遺産の構成文化財の一つです。現在は海岸から少し離れた場所に齋王が禊みそぎを行ったとされる石碑が建っているだけで、正直、「本当に齋王はここで？大淀で？禊をしていたの？」と首をかしげてしまいそうになります。そんな疑念を晴らしてくれる和歌が歴史の道の歌碑にありました！

おほよどの みそぎいくよに なりぬらん

神かんさびにたる うらのひめ松

(大意)

大淀の浦で神事の度に禊が行われたのは、もうどれほどの年代になったことだろう。浦の姫松までも神々しく感じられる。

出典

『拾遺和歌集』

作者

源兼澄

はつきりとした作歌年月はわかっておりませんが、平安時代中期頃であることとされています。平安時代中期は、平安時代の繁栄期はんえいきで最も華やかな時代であり、660年続いた齋王制度の中頃となります。この時代に源兼澄は、大淀の浦(尾野湊)で禊をしている齋王の姿を思いこの歌を詠みました。この歌が詠まれた後も300年以上齋王制度は続きます。ここまで長く齋王制度が続いたことを源兼澄が知ったらどれほど驚くことでしょう。そして、齋王制度は無くなり、海岸線も変わり、石碑が建てられていること、日本遺産となっていることを知ったら、何を思い、どんな歌を詠んでくれるでしょうか。



昭和8年頃の大淀 (大西源一氏撮影)



「歴史の道」12番目の歌碑です。



**史跡内での工事は、事前に  
齋宮跡・文化観光課  
までご連絡ください!**

史跡齋宮跡地内での建物の新築、解体撤去、合併浄化槽の設置、フェンスやブロックの設置などの工事を行う際には、文化財保護法の適用のもと、事前に許可申請が必要となります。

また、齋宮跡以外の地域においても、周知の埋蔵文化財包蔵地(遺跡の範囲)内で開発する際は同法により届出が必要です。文化財の保護に皆様のご理解、ご協力をよろしくお願ひします。なお、ご不明な点は役場齋宮跡・文化観光課(電話:52-7126)までご相談下さい。